

2011年11月21日

各 位

学 生 課

第246回松本歯科大学大学院セミナーの開催場所変更について

標記について、別紙のとおりご案内いたします。

*お問い合わせ

実習館1階 学事課（大学院）

内線：2216 又は 2217

E-mail: info_aogs@po.mdu.ac.jp

第 246 回松本歯科大学大学院セミナー

日 時: 2011 年 12 月 2 日(金) 18 時 30 分~20 時 00 分

場 所: 講義館 202教室 ←開催場所が変更になりました

演 者: 坪井 陽一 氏

(Total Solution Kyoto, Fukuoka, Sapporo, and Matsuyama
インプラント塾 塾頭 医療法人メディカルライフクオリティ 顧問)

タイトル: インプラント組織再生治療における 23 年間の変遷

歯科雑誌の巻末には企業主催のインプラント講習会が林立しており、そこには著名な先生方が講師として名を連ねる。医療情報を正しく伝える企業がほとんどだが、著名な先生方を御用学者として無理な販売戦略を立てているものも散見される。

最近、遠心分離して得られた血液由来成分による抜歯窩治癒促進、Sinus Elevation への併用、インプラント同時埋入への併用などが盛んに行われている。本講演では演者の過去 23 年間の顎骨再建症例や血液由来成分の臨床応用を振り返り、インプラント組織再生治療における診査診断、予後を見据えた治療選択や臨床術式の決定について解説する。インプラント組織再生治療の成功には、歯周組織管理、組織治癒とリモデリング、顎口腔領域の生体力学を精緻に理解し、科学論文で明らかにされた事実を整理統合し、歯槽外科や再生治療の基本術式を完璧に習得し、適応症の厳格な選択が不可欠となる。さらに血液由来成分の利用では、感染巣の除去、血液供給の担保、空間確保、生活細胞の保護、生体異物の使用量制限など生体治癒能を最大にする様々な考慮が必要となる。

新しい術式の実施においては科学的根拠を十分に理解し、個々の患者に対するテーラーメイドな治療選択が不可欠となる。個々の症例において何が正しいか、何が正しくないかを患者の医療情報に基づいて科学的に判断するのは個々の歯科医師の責務であり、治療における責任を企業に転嫁することはできない。

学歴・略歴

昭和29年6月21日生まれ

昭和59年 北海道大学歯学部卒業

平成元年 京都大学医学部口腔外科助手

平成 5年 イエテボリ大学医学部外科学研究所客員教授

Matsumoto Dental University
Graduate School of Oral Medicine

1780 Gobara, Hirooka, Shiojiri,
Nagano 399-0781, Japan

平成12年 京都大学大学院医学研究科口腔機能病態学講座講師
平成17年 京都府国民健康保険診療報酬審査委員会委員
平成19年 京都大学非常勤講師、メディカルライフクオリティ顧問
平成21年 熊本坪井塾 塾頭
平成22年 Total Solution Kyoto, Fukuoka, Sapporo インプラント塾
塾頭
平成22年 Total Solution Matsuyama インプラント塾 塾頭

担当:硬組織疾患制御再建学講座 岡藤 範正